

## JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	名古屋大学
研究科名	法学研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、工学研究科、環境学研究科
研究科の特色	学生の希望を基に入学者選抜を経て、学生は①法学研究科 法・政治領域コース（政治・法領域）、②生命農学研究科 生物資源科学コース（科学技術・イノベーション領域）、③国際開発研究科 国際開発協力コース（政治・法領域、経済領域、社会開発領域）、④環境学研究科・工学研究科 都市環境・土木工学コース（社会開発領域）の4つの開発経験コースに属し、開発経験コースに共通する「日本の開発経験講義群」から幅広い分野の日本の開発経験を学ぶことができる。
プログラム概要	政治・法領域、経済領域、社会開発領域、科学技術・イノベーション領域を深く学修するほか、併せて、自身の専門以外の領域についても幅広い知識を修得し、途上国で将来国の発展を担うトップリーダー候補をはじめ、学修領域に関連する各分野の開発を推進する人材を育成する。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>法学研究科：東アジア法研究ⅠA、東アジア法研究ⅠB、東アジア法研究ⅡA、東アジア法研究ⅡB、比較政治専門研究Ⅰ、比較政治専門研究Ⅱ、特別講義・演習（日本の司法機関）、特別講義・演習（日本の法システム）、特別講義・演習（知的財産法）、特別講義・演習（日本の社会と法）</p> <p>生命農学研究科：国際農学特論</p> <p>国際開発研究科：日本の開発経験、国際開発入門</p> <p>工学研究科／環境学研究科：途上国開発特論Ⅰ、持続可能性と環境学、低炭素都市学、環境コミュニケーション、気候変動と社会基盤（環境学）／気候変動政策論（工学）、環境産業システム論、環境都市システム論</p>
関連 URL	<p>法学研究科シラバス：  <a href="https://canvas.law.nagoya-u.ac.jp/pubs/syllabi-latest.html">https://canvas.law.nagoya-u.ac.jp/pubs/syllabi-latest.html</a>（GRADUATE SCHOOL OF LAW）</p> <p>生命農学研究科シラバス：  <a href="https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/graduate-school/pdf/SyllabusGraduate2019.pdf">https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/graduate-school/pdf/SyllabusGraduate2019.pdf</a></p> <p>国際開発研究科シラバス：  <a href="https://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/ja/curriculum/subjects/pdf/AY2019_Syllabi.pdf">https://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/ja/curriculum/subjects/pdf/AY2019_Syllabi.pdf</a></p> <p>環境学研究科・工学研究科シラバス：  <a href="https://www.env.nagoya-u.ac.jp/syllabus/cur/sylla_senko.php?sen=g30_civil&amp;kat=ze">https://www.env.nagoya-u.ac.jp/syllabus/cur/sylla_senko.php?sen=g30_civil&amp;kat=ze</a></p>

プログラムの  
魅力紹介



国際プログラム修了式



海外研修ツアー



学生による成果発表会

○受講生の声

・国際開発研究科

講義「日本の開発経験」は、とても良い勉強になりました。この講義から、日本の開発の歴史は短期間のものではなく、長い年月をかけて日本人が経済、政治、社会面での改革による変化に耐えてきたことによるのだとわかりました。とりわけ、19世紀の明治維新以降の奇跡的な成長、非西洋の列強となったこと、そして第2次世界大戦以降の復興に印象付けられました。これらを可能とした日本人の協調的な取り組み、植民者による文化的侵食を許さなかった文化的な成熟度、1886～1889年の女子教育に焦点を当てた教育改革、政治改革などが重要な点として挙げられます。日本を先進国となるために行った取り組みを知ることは、現在の日本の文化とシステムを理解する上でも役立ちました。実際に日本に住む上でも役に立ちましたし、我々の母国を含む途上国が抱える課題を考える上でも参考になりました。

(JICA-ABE 奨学生 Barigye Doreen)

・工学研究科／環境学研究科

私は JDS の奨学金によりモンゴルから来日している、博士前期課程の学生です。JDS プログラムは、JICA 開発大学院連携プログラムと名古屋大学国際環境人材育成プログラム (NUGELP) に参加する素晴らしい機会を与えてくれました。これらのプログラムを通じて、私は環境問題に関する多くの最新の研究や情報を学んできました。講義を受講するのみならず、学生は研究室に所属し、指導教員のもとで学術研究を行う手法を学ぶことができます。私は交通工学研究室に所属してい

ます。私の国の交通事情はとても悪いため、私はこの研究室のメンバーであることを誇りに思います。

プログラムでは、日本の機関へのインターンシップという素晴らしい機会も与えてくれます。私は国土交通省国土技術政策総合研究所でインターンシップを行い、日本の仕事の仕方や、どのように彼らが道路管理に貢献しているのかを経験することができました。

教育研究の他、海外・国内のスタディーツアーも楽しむことができます。去年はスリランカに行き、インフラ開発プロジェクトの視察を行いました。このようなツアーにより、留学生と日本人学生との間の友人としてのネットワークも強まるのではないかと思います。

このように、私は JICA 開発大学院連携プログラムおよび NUGELP のメンバーであることを大変誇りに思います。学位取得後は、日本で学び、経験したことを活かして母国の開発に貢献できればと思います。教員の皆様およびプログラムの担当者の皆様の支援に感謝いたします。

(JDS モンゴル奨学金による博士前期課程学生 AYURZANA Munkhjargal)

#### ○受験者へのメッセージ

##### ・工学研究科／環境学研究科

都市環境・土木工学コースは環境学研究科と工学研究科が共同で実施しており、2019年10月現在で14カ国・計55名の留学生が博士前期課程に在籍しています。本コースではこれら様々な国籍の留学生のみではなく、ほぼ同数の日本人と共に学ぶことのできるミックスコミュニティでの教育を実践しており、幅広い視点と国際感覚、深い専門知識を同時に身に付けることができます。

特に、持続可能なインフラ開発や環境・防災問題について、工学的観点から具体的な解決策を立案するリーダーとしての素養を養います。最先端技術の学習はもちろん、グローバルに活躍する企業・国際機関から直接講義を受けたり、政策立案に必要な国際コミュニケーション能力を鍛えることで、実務的な課題発見・政策立案能力を身に付けられるプログラム構成となっています。

本コースは2009年に開始した名古屋大学国際環境人材育成プログラム(NUGELP)を母体とし、学生はNUGELPにも同時に参加しています。NUGELPの研究インターンシップや国内外のスタディーツアーなどにも参加することで、更なる実践力の強化が図られます。